

① 今、本地ヶ原にある歴史

今、本地っ子は、本地ヶ原で生活しています。たくさん住宅があり、広い道路には店が並び、自動車がひっきりなしに走っている本地ヶ原。しかし、ほんの百年前、本地ヶ原には、住宅も、店も、自動車も、何もありませんでした。百年前、本地ヶ原は荒れ地で、住む人も少なく、キツネやタヌキが走り回っていたのです。

6年生の社会科では、歴史を学習します。

今、わたしたちが生きているこの日本の社会は、どのようにしてできたか、そのうつりかわりを学習します。もちろん、それは自然に変わって来たわけではありません。人が変えてきたのです。わたしたちのご先祖様が、どんな願いをもって、この国を変えてきたのか、歴史の学習を通して、その思いを想像して感じましょう。その思いが今の日本を、本地ヶ原をつくったのです。

② 歴史の旅に出よう

過去の世界は別世界、ある意味、異世界です。

今あるものがなく、今ないものがあります。

歴史を学ぶことは、旅をするようなものです。

観光するようには、今とは違う、それぞれの時代のおもしろさを、見つけられるようによいでしょう。

もし、自分がその時代に生きていたらと、想像すると楽しいですね。

その時代で、見たいもの、やりたいことは、何でしょう。もし、歴史上の人物に出会えたら、どんなことを話しますか。

秋には実際に修学旅行で奈良・京都に行きますが、まずは本の中、心の中で旅をしましょう。また、本地ヶ原のいろいろな場所に立ち、

「ここは昔、どんな様子だったのだろう」と

と想像してみましよう。そこに生きた本地ヶ原の人々の姿を想像してみましよう。

③ 人がいない本地ヶ原

昔、昔、大昔、本地ヶ原には、まだ人がいない時代がありました。

日本各地には、何万年も前から人がいた場所があり、石器などが見つかっています。

しかし、本地ヶ原では、見つかりません。人がいない本地ヶ原を想像してみましよう。

家も、店も、道路も、田畑ありません。

あるのはただ森や野原だけ。地平線まで見渡すことができます。そこを動物たちが走りまわり、その上空には鳥や虫たちが飛んでいます。

そして、のちに矢田川と呼ばれる川になる、名もなき川が、今と同じように流れています。夜になれば、地上は真っ暗になり、夜空には、月や星が輝き、今以上に明るく見えます。

今とくらべれば、とてもとても静かな世界です。そんな世界が何十万年、何百万年と続きました。

④ 縄文時代の本地ヶ原

日本各地で、縄目模様のついた土器、縄文土器が作られるようになりました。

尾張旭からは、発見されていません。

まだ人が住むことはなかったのでしょうか。

しかし、本地ヶ原を通り過ぎた縄文人はいたかもしれませんが。

狩りをしてくらしていた人々は、えものをもとめて移動することがありました。

人も動物も生きるためには水が必要です。

川の近くには多くの動物がいたでしょう。

南の方から移動して来た縄文人が、本地ヶ原の丘から、矢田川を見つけ、大喜びしたかもしれません。そして、えものをかり、矢田川の水でのどをうるおして、立ち去っていった。そんな場面が、幾度となくあったかもしれません。やがて、この近くに住む人があらわれるのです。

⑤ 最初の人々

長坂町から古い石器が見つかっています。

石でつくられた矢じりやナイフです。

近くから縄文時代と弥生時代がまじわる時点の土器が見つかっていることから、

縄文時代の終わり頃のものと考えられます。

住居のあとは見つかっていませんが、

尾張旭で最初に人が住んだのは、このあたりと
考えられます。

本地ヶ原に最初に住んだ人々は矢田川の近く
で、弓矢や、やりを使って、からをしながら、
生活していたのでしょ。

長坂のあたりは、今でも景色がよいところ。

冬から春にかけて、天気の良い日は、遠く御岳
や白山が白銀に輝く姿を見ることができます。

尾張旭に最初に住んだ人々が長坂を選んだの
は、そんな理由もあったからかもしれません。

⑥ 長坂のむら

ラポール旭の東に、長坂遺跡があります。

長坂遺跡は、今から千九百年前の住居あとです。たてあな住居のあとが二十二けん、見つかっています。近くから、つぼやかめなどの弥生土器が見つかっていて、三十けんくらい住居があり、百人以上の人が住んでいたと考えられます。昔も今も、ここは多くの人が住む場所です。

田は今もそうですが、矢田川の北側に広がっていたようです。では、なぜ、むらは小高い丘の上にあったのでしょうか。

矢田川が洪水を起こすからでしょうか。敵からむらを守るためでしょうか。丘からは、まわりを見渡すことができ、敵が来てもすぐにわから、攻められた時に守りやすいです。

戦いを指揮する首長もいたことでしょう。やがて、この地に、古墳がつくられます。

⑦ 米作りが始まる

矢田川の北側は、水が豊富にある平地で、今も米作りが行われてる場所です。長坂に住む人々は、川の北側で米作りをしていました。

食べものをかりにたよっていたころは、えものがとれないと食べものにもりました。しかし、米は保存がきき、生活が安定しました。食べるものに苦労しない生活は、人々にとって大きな夢でした。その夢をかなえたものが、米でした。日本人にとって、秋に稲穂が実る風景は、本当に

幸せを感じるものです。実に感謝する祭りも、行われました。その祭りは、今も行われていきます。

(スカイワードめだひ 3階 歴史民俗フロアに)

「長坂遺跡」の展示がおすすめです。



⑧ むらからくへ

米作りが始まると、むらの指導者は、強い力をもって、むらを支配する豪族になっていきました。豪族の中には、まわりのむらをしたがえてくにをつくり、王とよばれる人も現れました。3世紀にできたくへの一つが有名な邪馬台国で、女王卑弥呼が治めました。

また、4世紀には、大和地方（奈良県）の豪族たちがまとまって、大和朝廷をつくり、領地を東西に広げました。5世紀には、長坂のむらも大和朝廷にしたがっていたと考えられます。

それが戦いによるものなのか、話し合いによるものなのかはわかりません。大和朝廷が領地を広げるのに活躍したヤマトタケルの伝説があります。東国へ行く途中に、本地ヶ原を通ったという話は、残念ながら残っていません。

⑨ 白山第一号墳

長坂遺跡公園にある白山第一号墳は、古墳時代中期のもので、尾張旭で一番古い古墳です。弥生時代の長坂遺跡のすぐ近くにあります。

この古墳があるのは、丘の一番高いところに、水田で働く村人を見守る場所にあります。

できた当時は、丘の下、矢田川の北側に広がる水田から、よく見えたのではないのでしょうか。古墳を作った頃、長坂のむらには、別の場所に、移っていたようです。

この古墳からは鉄剣が2つ発見されています。鉄剣は、どこから手に入れたのでしょうか。

大和朝廷から手に入れた、または、大和朝廷からもらった人から、さらに別の人にゆずられ、人づてに、手に入れたのでしょうか。

それとも、別の力を持った豪族からでしょうか。いろいろと想像が広がります。

⑩ 天狗岩古墳

白山第一号墳の横に天狗岩古墳があります。

実際はもう少し東の方にあったものを、ここに移してきたものです。

天狗岩古墳とは、おもしろい名前ですね。

なぜ、そうよばれるようになったのでしょ。

昔、長坂の丘に「天狗のかかと岩」とよばれる大きな岩がありました。その中央には、小さなくぼみがあり、それは、天狗がこの岩を踏み台に、猿投山まで跳んでいったあとだという伝説がありました。のちに、その岩が古墳の天井石であることがわかりました。それで、その古墳に天狗岩古墳という名前がついたのです。その岩は今、本地ヶ原神社にまつられています。もしかしたら、古墳を守るために、天狗の伝説が生まれたのかもしれない。

⑪ 岩のドームと天狗のかかと岩



イスラエルの首都エルサレムに岩のドームとよばれるイスラム教の建物があります。

この建物の中には、巨大な岩があり、イスラム教の開祖ムハンマドがその岩から天馬にのって、天国へのぼり、アッラーフの神に会ったと伝えられています。

岩から空を飛び、その岩がまつられているところが、天狗のかかと岩の伝説に少し似ていると思いませんか。

ほかにも、世界各地に聖なる岩の伝説がありますが、本地ヶ原にも、そんな伝説が残っているのは、すごいですね。



⑫ 律令制度の下で

飛鳥時代には、律令がさだめられ、日本の国のしくみが整えられました。

本地ヶ原は、尾張国山田郡に入りました。

山田郡は、今の瀬戸・尾張旭・長久手・日清・名古屋市東部にあたります。

尾張旭には、印場・稲葉・新居などの村がありました。
ました。

山田郡は、天武天皇が行った収穫祭で、神様に備える稲をおさめる郡に選ばれました。

印場の渋川神社に、その石碑が立っています。

天皇とのつながりがあり、聖徳太子のことや、大化の改新のこと、壬申の乱のこと、平城京や大仏のことも、伝わっていたことでした。

また、重い税に苦しんだ人もいたことでした。

⑬ 白山神社のはなし

本地ヶ原神社の鳥居の前に、「元白山神社」とぎざまれた石ひがあります。



白山神社は、聖なる山、白山とよばれていた、長坂の丘に、奈良時代に創建されました。白山信仰がもととなる雨乞いの神様として、また、祖先をまつる神社として、村人に大切にまつられてきました。その後、神社は、荒れてしまいました。江戸時代（一六六五年）に、再建されました。

明治時代（一九一一年）に、ここが陸軍演習場になり、稲葉の一之御前神社と一つにしました。その時建てられた石ひが、平成元年に発見され、今は本地ヶ原神社にあります。

道ばたの石ひに、長い歴史がかくされています。

⑭ 学問の神様 北野天満宮

本地ヶ原神社には、他に3つの神社をまつっています。

その一つが北野天満宮で、

平安時代の貴族、菅原道真をまつっています。

遣唐使の中止を進言し、国風文化が栄える

きっかけをつくった人です。しかし、藤原氏と

対立して、九州に追放され、都に帰ることもなく、

なくなりました。その後、都では天皇の御殿が

焼けるなど、よくないことが続き、菅原道真の

たたりと言われました。そして、神様として、

まつられることになりました。天神さまとよば

れています。また、大変頭のよい人だったので、

学問の神様として人気があり、全国にたくさん

の北野天満宮があります。

本地っ子が勉強ができるようにという願いを

こめて、いじりまじられたのかも知れません。



⑮ 本地ヶ原神社 牛と梅の謎

本地ヶ原神社には、牛の像があり、その横に、梅の木が植えられています。

これは菅原道真との関係です。

菅原道真が九州に行く途中、命をねらわれ、白い牛に助けられたという伝説や、生まれた日も死んだ日も丑(うし)の日であったことから、道真の神使は牛とされました。

また、道真が九州に行った時、大切にしていた梅の木があとを追って、九州まで飛んで行ったという「飛び梅」の伝説があります。

そのため、道真を祭る天満宮には、たいいてい、牛の像と梅の木があり、本地ヶ原神社にも、北野天満宮があるので、牛の像と梅の木があるのです。神社やお寺にあるものには、すべて意味があります。



①⑥ 聖なる白山

本地原小学校がある長坂の丘は、白山神社があったことから、今も白山とよばれています。とてもきれいな水がわきでていたことから、水源の神として、白山神社がたてられました。その昔、稲葉村だけでなく、印場や庄中の人々も、雨ごいのおいのりをしたといっています。米作りにとって水は何より大切なものです。

矢田川の北で米作りをする人々は聖なる山として、白山をおおぎ見ていたのでしょ。そして、

そして、白山は、米作りをいとなむ人々を、やさしく見守っていたのではないでしょか。

時代は、鎌倉から室町へと移り、新居村ができ、

新居城が築かれます。

そのうつりかわりを、白山は見続けました。長坂遺跡から見える景色から、昔の風景を想像してみましょ。



①7 郷土の英雄 毛受勝助



尾張旭市文化会館の前に毛受勝助という武将の銅像があります。

毛受勝助は稲葉村の出身で、織田信長の家臣、柴田勝家に仕えました。

信長の伊勢長島攻めの時、敵に奪われた馬印を取り返す活躍をしました。

信長の死後、秀吉と勝家が戦った賤ヶ岳の戦いでは、勝家の身代わりとなって戦い、討ち死にしました。

本地ヶ原のすぐ近くに、歴史に名を残す人が、いたのです。

他にも、名は残っていないけれど、本地ヶ原の近くの出身者で、信長や秀吉の家来として活躍した人々がいたかもしれません。

⑱ 白山林の戦い

本地原小のまわりは昔、白山林とよばれる森林でした。一五八四年、ここで、天下を争って、秀吉方と家康方が戦いました。

秀吉方の三好秀次（後の関白、羽柴秀次。当時十七才。「真田丸」にも登場していました。）が、白山林で休息しているところを徳川軍が奇襲し、秀次は逃げのびたものの、秀吉方は、ほぼ壊滅状態になりました。

その後、家康方が秀吉方に勝利し、後の家康の天下統一につながったと言われています。

本地ヶ原から歴史の大きな動きが始まったといっっては言い過ぎでしょうか。



本地ヶ原神社にある兜神社
白山林の戦いで戦った武将
を祭っている。

①9 白山林とおさいの方

おさいの方は、尾張藩主徳川義直の側室である。江戸時代の記録に、おさいの方が白山林に、きのこ狩りに訪れたという記事がある。

当時、白山林はキノコ類の名産地で、尾張藩から村人の入山が禁止された「平山」に指定され、マツタケが採れる季節には、見張りの番人が、付けられた。

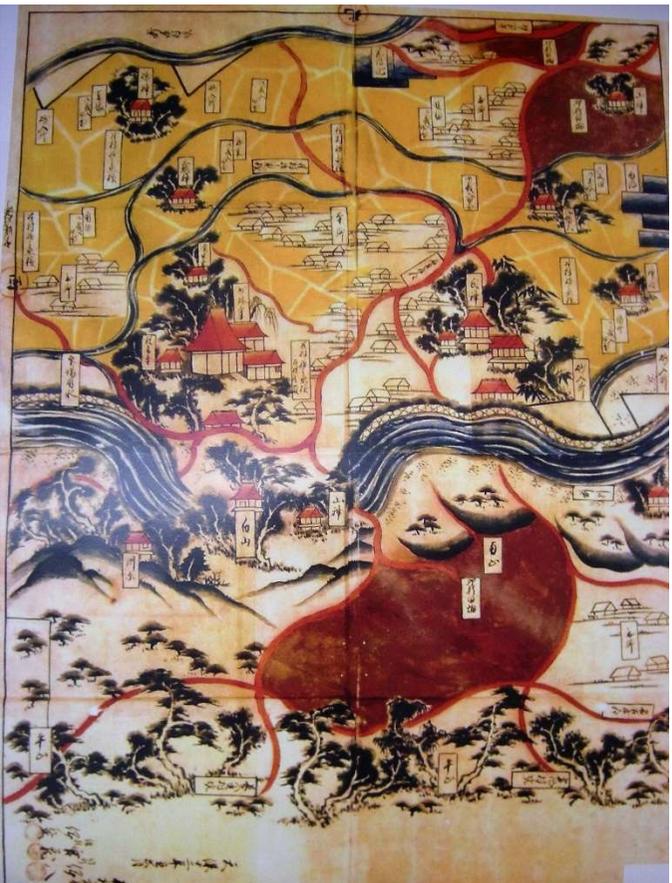
その頃、奈良時代からまつられていた白山社は、荒れはてていた。その白山社をおさいの方が再建したという。おそらく、おさいの方にとって白山林はお気に入りの場所であり、この地に思い入れがあったと思われる。

なお、長坂のふもと、矢田川の北にある少林寺は、おさいの方の休憩所として、この地に移転された寺である。



②0 村絵図に見る本地ヶ原

江戸時代の本地ヶ原はどんなようだったのだろう。それは、村絵図を見ると、わかる。昔は写真がないので、絵で村の様子を記録した。本地ヶ原は、江戸時代、稲葉村であった。左が、百七十年前の稲葉村の村絵図である。



天保十二年（一八四八年）
稲葉村絵図

中央に今と同じように矢田川が流れている。その南に白山神社がある。これは今、本地ヶ原神社にうつりかわっている。学校があるあたりは、森林になっている。今は家がいっぱいだ。村絵図を見ると、昔と今の違いがよくわかる。

②1 本地ヶ原のおはなし

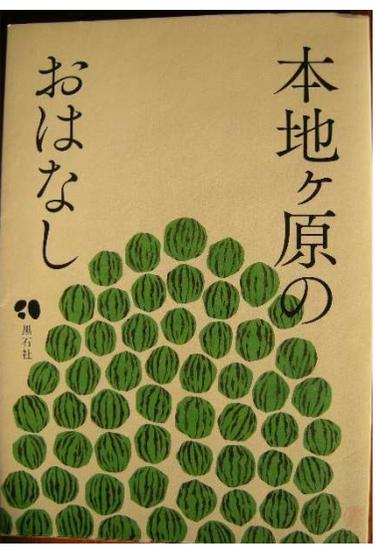
むかしから、この本地ヶ原に伝わるお話があります。それは、ある時代のどきどきが伝わっているお話もあれば、この時代のじよなのかわからないお話もあります。

本当に起きたことかどうかわからないお話もあります。

でも、長く伝わるお話には、伝えられるだけの意味があると思います。その意味を考えてみると、昔の人の思いが感じられるじよです。

「本地ヶ原のおはなし」という本が、図書室にあります。ぜひ読んでみましょう。

また、十一月二十日に、「本地ヶ原のおはなしを聞く会」があります。たくさんの方が参加してくれらるじよです。



②② 戦争の時代へ

明治時代、日清戦争・日露戦争の後、本地ヶ原は、陸軍の演習場になりました。

昭和になり、広大な土地は飛行機不時着場になり、飛行機が参加する演習に使われました。

第2次世界大戦の終わり頃には、飛行場ができ、格納庫や滑走路が造られ、「赤トンボ」とよばれた複葉練習機やグライダーが飛んでいました。厳しい訓練後の兵士は、新池で汗を流したそうです。

②3 戦後、開拓が始まる

昭和二十年、戦争が終わり、日本は再出発しました。この年は、本地ヶ原にとっても、新たな始まりとなった年です。

戦地から多くの人々が日本に帰国しました。食料を増産するため、不要になった軍用地や演習場を農地にするようになりました。

本地ヶ原も開拓地となり、百十二世帯が入植しました。

作物を育てるため、土作りから始めました。本地ヶ原は土地がよくなり、耕すのが大変で、作物があまり育ちませんでした。

草を刈り取って土の中に入れたり、ごみを集めてきて、肥料にしたりしました。

入植した人々は、大変な苦勞が続きました。

②4 地域の人がつくった本地原小学校

本地ヶ原の子どもたちは、はじめ、旭小学校と渋川小学校に通っていました。

まだ給食がなかった頃、弁当持参でしたが、生活がきびしく、弁当を持って行けない子もいました。また、遠い旭小学校や渋川小学校に通うのは、とても大変でした。

「子どもの教育はしっかりとやらたい！」という強い思いから、開拓組合の人たちが動き、戦争中の兵舎を改造して教室にして学校をつくりました。

「組合立旭小学校本地原分校」

これが本地原小学校の最初の名前です。

昭和二十六年四月三日、全校児童九十二名、複式学級の3クラスで発足しました。

その時、後援会長の寺田さんは小学2年生、同窓会長の榊原さんは小学1年生でした。

②5 本地ヶ原の「日の丸スイカ」
本地原小学校ができたころ、本地ヶ原は、
一面がまだ畑の農業地帯でした。
そこでたくさん野菜や果物がつくられ、
市場に出荷されました。その中で、一番の
ヒット商品が、「日の丸スイカ」でした。
スイカができるまでには、土をよくしたら、
肥料をくふうしたり、大変な苦勞がありま
した。

「日の丸スイカ」は収入の柱となり、農家
の人たちは、借りていたお金を返したり、
新しい農機具を買ったりしました。

「日の丸スイカ」は、元気と笑顔をくれま
した。



②6 本地ヶ原開拓記念碑

本地ヶ原神社の鳥居の前に、大きな石碑が建てられています。

これは、昭和四十一年（1966年）に、本地ヶ原を開拓した人々への感謝の気持ちをかこめて、建てられました。石碑の裏には、次のような内容の言葉が刻まれています。

「戦争に負けた日本を立て直そうと、全国から百五十世帯の人が集まり、雨の日も、風の日も、努力に努力を重ね、やっと、作物がとれるようになった…」

本地原小学校校歌の3番の歌詞「荒野を

拓く たくましい力が いつもよみがえる」は、開拓者の力が受け継がれていくことを歌っています。本地っ子みなさんには、

フロンティアスピリッツ

開拓者魂が宿っています。のびのびと、たくましく成長していきましょー。

②7 本地ヶ原神社の建立―白山神社の復活

学校の東どなりに本地ヶ原神社があります。秋祭りやどんど焼きが行われ、地域の神社として親しまれています。

ここが通学団の集合場所の子もいますね。もともと本地ヶ原には、白山神社という神社があり、人々に大切にされてきました。明治時代、ここが演習地になった時、他の神社に移されました。

戦後、開拓が進み、住む人が増えてくると、古くからいる人も、新しく来た人も、この本地ヶ原に住む人みんなが集まれる場所として、昭和四十五年（1970年）に、今の場所にまつられ、平成十五年（2003年）には、今の立派な社殿ができました。

本地ヶ原神社は、本地ヶ原の歴史と文化のシンボルともいえます。

②8 「本地ヶ原のおはなし」の発刊

平成二十七年（2015年）、「本地ヶ原のおはなし」という本ができました。

本地ヶ原の開拓者の近藤正清さんという方の「本地ヶ原の文化と歴史を、後世に伝えてほしい」という強い願いを、息子の正勝さんが受けついで、この本を作りました。

この本には、本地ヶ原の昔話をアレンジしたお話と、歴史の読み物がのっています。6年生全員にプレゼントされるので、ぜひ読んでみてください。

本地ヶ原のことがよくわかると思います。そして、お家の方にも読んでもらってください。家族で、本地ヶ原の文化や歴史について、話し合えるといいですね。

本地ヶ原の文化と歴史が広がっていくと、近藤さんもよろこばれると思います。

②9 明日、創られる 本地ヶ原の歴史

平成二十九年三月十六日(木)、本地原小学校第六十四回卒業証書授与式が行われ、百十九名の卒業生がはばたいていく。

本地ヶ原の未来を創っていく本地っ子たち。未来の本地ヶ原は、どんな町になっているのだろうか。

きつと、今よりすばらしい町になっているはずだ。

今のよさを失わず、新しいよさを加えて、よりすばらしい本地ヶ原にしていこう。

♪いつか 景色は変わっても

変わらないものがある 心の中に
時は過ぎても、本地ヶ原で過ごした
楽しさ、喜び、うれしさを忘れない。

♪君のふるさと ぼくのふるさと

いじはふるさと 本地ヶ原・・・